



令和6年10月1日

報道関係者各位

国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学

日本から新種のゴマフアブを発見

【リリース概要】

本学大学院 奥野雄太（畜産科学専攻 環境生態学コース2年）及び帯広畜産大学 環境農学研究部門准教授 山内健生は、大分県で採集されたゴマフアブ属（ハエ目：アブ科）の標本が新種であることを見出し、ブンゴゴマフアブ *Haematopota yonetsui* と命名しました。ゴマフアブ属のアブは、これまでに日本から12種が記録されており、人や家畜に飛来して吸血する害虫です。日本におけるゴマフアブ属の新種発見は約40年ぶりとなります。

本論文は令和6年9月25日に日本衛生動物学会の学会誌 *Medical Entomology and Zoology* に掲載されました。

【解説】

本学大学院生 奥野雄太が、吸血アブの分類学的研究のために大阪市立自然史博物館に収蔵されているゴマフアブ属の未同定標本を調査し、新種であることを見出しました。そこで、新種記載論文を発表し、このアブにブンゴゴマフアブ *Haematopota yonetsui* という名前をつけました。本新種の標準和名（日本語の名前）にある「ブンゴ」は、新種アブの採集地の旧国名である豊後国（ぶんごのくに）に由来します。また、学名（世界共通の名前）の種小名「yonetsui」は、最初に本種が新種である可能性を見出された大阪市立自然史博物館外来研究員の米津晃氏に献名されたものです。

本新種は、ゴマフアブ属の *nigriantenna* 種群に属しており、触角の柄節が黒色かつ、鞭節基部が黄褐色という点から、中国やロシアなどに分布する近縁種である *Haematopota desertorum* と *Haematopota pluvialis* に類似します。しかし、前額の幅、額瘤の形状、触角柄節、小楯板、腹部背面の模様、翅の第5径脈室から第2臀脈室にかけての白斑に違いが見られることにより識別が可能です。

ゴマフアブ属のアブは、これまでに日本から12種が記録されており、人や家畜に飛来して吸血する害虫です。しかし、研究者が少ないため、基礎的な研究が遅れています。今回、日本におけるゴマフアブ属の新種が約40年ぶりに発見されました。



図1：ブンゴゴマフアブ *Haematopota yonetsui* の写真。

【特記事項】

本研究で使用された標本は、大阪市立自然史博物館に収蔵されています。

【発表雑誌】

Medical Entomology and Zoology, 75(3): 169–172.

DOI: 10.7601/mez.75.169

【論文名】

Description of a new *Haematopota* species (Diptera: Tabanidae) from Kyushu, Japan

【著者】

Yuta Okuno (奥野雄太)：帯広畜産大学 畜産科学専攻 環境生態学コース

Takeo Yamauchi (山内健生)：帯広畜産大学・環境農学研究部門 准教授

【連絡先】

帯広畜産大学環境農学研究部門

准教授 山内 健生

TEL : 0155-49-5506

E-mail : tyamauchi@obihiro.ac.jp